

令和5年度 幼稚園における学校評価（自己評価）結果報告書

令和5年度、幼稚園において実施した、学校評価結果を報告いたします。

※ 幼稚園教職員により評価項目を設定、令和6年3月、教育活動および学校運営に関して自己評価を行いました。

【聖徳大学附属第二幼稚園】

1. 学校の教育目標

建学の精神 「和」

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

本園の幼児像「いつもにこにこ元気な子ども」を教育目標とし、以下の5つを具現化し、日々の保育を行う。

1. 健康でたくましい子どもに
2. 誰とでも仲良くできる子どもに
3. しっかりと約束の守れる子どもに
4. あいさつのできる子どもに
5. 自分で考えて行動のとれる子どもに

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価結果の表示方法	
◎	目標点を大きく上回る
○	目標点に達する
△	目標点に届かなかった
×	施策を実施出来なかった

評価項目	結果	理由								
<ul style="list-style-type: none"> ・食育は本園の教育において重要な項目のひとつと考え、食べるだけでなく、座り方、食べ方、所要時間など食事のマナーを身につける。 ・箸づかいの評価基準を設定し、その結果を保護者に伝え、連携を図り、卒園時まで90%の園児が習得できるようにする。 (「小さいときにおける「おぼえておきたい生活のやり方」参照) 	△	<p><箸の調査結果>正しく扱える園児（令和6年3月）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>満3歳児</th> <th>3歳児</th> <th>4歳児</th> <th>5歳児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0% (0人)</td> <td>19.7% (12人)</td> <td>72.7% (32人)</td> <td>78.6% (66人)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍から新しい様式となり、楽しい雰囲気の中で食事ができるようになった。箸づかいを意識しながら食べられるよう、個別の指導を進めてきたが、常に全ての園児に対応することは難しく、また箸指導の前に食事のマナーの自立を優先したため、目標には達することができなかった。 ・座って食べる、自分で食べる、食後も静かに待つ、自分の食器を片付けるなど、食事のマナーについては、それぞれの学年に応じて計画しながら指導を進め、どの学年もこの一年で全員が自立できた。 ・1人ひとりの状況に応じて配膳の量を調節し、『既定の量を全て食べる』ことよりも、達成感や次への意欲、今後の給食に期待できる環境づくりを優先し指導を進めた。 ・コロナ禍より実施していた『時間を決めて食事をする』ことは、食育においても効果がみられたため、今後も学年や状況により30分を基準に対応し、さらに箸づかいの自立に向けて指導方法も含め工夫して進める。 	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児	0% (0人)	19.7% (12人)	72.7% (32人)	78.6% (66人)
満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児							
0% (0人)	19.7% (12人)	72.7% (32人)	78.6% (66人)							

<p>・基本的な生活習慣の自立【排泄・衣服の着脱・挨拶の項目において自立を目指す。】 （「小さいときにおぼえておきたい生活のやり方」参照）</p> <p>*姉妹園（附属幼稚園・成田幼稚園・浦安幼稚園）と合同研修会を行い、情報交換をするとともに、指導力の向上に努めた。</p>	<p>○</p>	<p>【満三歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄は、大きな課題のひとつであり、入園当初から取り組んできた。入園時にパンツで登園できた園児は1名（4.5%）だった。個々の状況を把握し保護者と連携して個別にトイレトレーニングを進めた。3月には、失敗はあるものの23名（92.0%）が、園内ではパンツ生活ができるようになり、大きな成長が見られた。 <p>【三歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱において88.6%の園児が自立できた。毎日体操服を持参していただき、登園後自分で着替えをする経験を重ねることで効果が出たと思われる。また、男児の排泄時にはズボンを全て脱ぐことなく対応ができるよう個別指導し、身につけてきている。 ・ブラウスをズボンやスカートにうまく入れることができなかつたり、ボタンをかけ間違えたりすることもあるが、声をかけると、自分で直そうとする姿が見られ、自立心が育ってきている。 <p>【四歳児・五歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登園時のあいさつについて、バス降車前にあいさつができるよう声をかけることで、玄関でのあいさつは元気に大きな声で言えるようになってきた。また、年長児を中心に園内にいる先生や友達に対して挨拶をする『あいさつ運動』を進めた。その姿を見ていた4歳児が模倣し、挨拶を通して友達や先生と関わり、コミュニケーション能力の向上にもつながったと感じる。
<p>・子どもの自由な発想や思いを表現し、主体性を高められる活動環境を整える。</p>	<p>○</p>	<p>【製作あそび】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に自分の発想を表現できるよう、家庭から箱やパックなどを持参していただけるようお願いをしたところ、多くの家庭からご協力を得ることができ、たくさんの材料が集まってきた。各保育室に設定してある本園オリジナルの『製作台』を大いに活用し、折り紙・紙テープなどの補助教材を自由に使いながら製作活動ができるよう環境を整えた。 ・思い思いに作品を作ったり、友達と見せ合ったりしながら楽しむ姿も見られ『主体性』が高まる環境のきっかけとなった。 <p>【お店屋さんごっこ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4歳児クラスでは、昨年5歳児が行っていた『お店屋さんごっこ』に興味を示し、自分たちも同じように展開したい思いを実現するため、今年度もお店屋さんごっこが展開された。 ・どのようにしたら売れるのか、また販売方法やお店屋さんごっこのルールなどについて友達と一緒に考え、意見を交わしながら展開していた。さらにお客さんとして他学年が参加するとその経験が模倣され、各学年なりの自由な発想で園児主体の活動へと発展した。 <p>【発表ごっこ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を表現する力を引き出す環境の工夫も進めた。人前で言葉を発することが苦手でも、手作りのマイクを持って話したり、一言だけのルールを作って話をしたり、ペープサートを持つことで安心して話すことができるなど、発表経験を重ねることで自信が芽生え、大きな声が出たり他の活動への意欲につながった。 <p>【リズムあそび】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年の集大成としての発表会『たのしみショー』では、全園児が友達と一緒に学年毎リズム遊びに参加し、ストーリーの中での動きやセリフ、大道具操作などの役割を理解しながら

		<p>ら責任をもって参加することで、達成感を感じ自立心に繋がった。</p> <p>【ちびっこ劇場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『たのしみまショー』を終えてからも、幼稚園内でリズム遊びを見せ合う『ちびっこ劇場』を行った。年齢の低い学年でも長時間にわたる他学年のリズム遊びに興味をもち、真剣に観る姿があり、幼児同士の伝え合いは幼児の記憶に強く残り、それを模倣し、実現しようとする幼児主体の活動へとつながると感じる。 主体性につながる、意欲や協調性などの非認知能力を数値化することは難しいが、確実に幼児ができるようになったことが増えており、主体性は高まってきていると感じる。
<ul style="list-style-type: none"> 安全に遊ぶことができる環境づくりや感染症対策を進める。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 4年間のコロナ禍生活も、新型コロナウイルス感染症が5類へと移行したことにより、新しい生活が始まった。行政からの感染防止対策指導を受け、消毒や換気に対し意識しながら適切な対策を継続した結果、アンケートによる感染症対策の保護者満足度として95.7%の方からご理解いただくことができた。 園内の施設、遊具等について、園児が安全に遊ぶことができるよう、掃除を通して点検を行い、活動状況を確認し劣化防止のためペンキを塗りなおしたり、部品を変えたりするなど安全管理をすすめた。 感染症について保護者からの報告方法も紙ベースから、アプリ登録での対応も可能とし、保護者の負担を軽減しながら安全に集団生活ができる環境を整えた。 今後も状況に応じて安全対策の改善を含め、適切に進めていく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
○	<ul style="list-style-type: none"> 本園の教育、運営等について、令和6年3月に実施した「幼稚園に関するアンケート」結果から98.5%の方からご理解頂き、おおむね満足して頂くことができたと感じている。特に『教職員は園内外の安全に留意していますか』の問いには、「はい」「まあまあそうだと思う」を合わせて100%の方々からご理解を頂き、園児の命を守る環境を第一に考え対応した安全管理についての対策を評価して頂けたと感じる。今後も園内、また通園バスにおいても安全を第一に進めていく。 「幼稚園の行事を通してお子様の成長を感じましたか」という質問では、「はい」「まあまあそうだと思う」を合わせ99.5%の保護者の方々が、お子様の成長を感じることができたという回答を頂いた。それぞれのお子様が集団の中で自己発揮し、友達と仲良く関わったり一緒に活動することの楽しさをあじわう経験から、何が育ったのか、特に表面的に見えない非認知能力が育っていることをご理解頂けるよう、保育の可視化を進め工夫することが大事だと考える。 本園の理想とする幼児像『いつもにこにこ元気な子ども』の実現のため、保護者の方々のご理解とご協力を得て進めることができ、園児の育ちに繋がったと考える。しかし、行事や保育の中でいくつかのご意見もいただいている。そのご意見を踏まえ園児、保護者の思いに寄り添い、対応できる部分は改善しながら『聖徳教育』を進められるよう今後も対応していく。 れんらくアプリの活用についてアンケートにより「まあまあそうだと思う」も含め99.5%の保護者より役立っているとの回答を得られた。行事予定や活動内容、緊急連絡やポートフォリオ等、今後もアプリの活用による情報共有のスピード化と家庭との連携や幼稚園教育への高い効果、さらにペーパーレスによるエコロジー活動を進められるよう工夫する。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
<ul style="list-style-type: none"> ・園児主体の保育環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心した気持ちで登園できるよう、スキンシップを大事にしながら園児の気持ちに寄り添い、自己発揮できる環境を設け、また、園児一人ひとりがもっている発想、自由に表現することの楽しさを感じ、安心して表現できる環境を整える。 ・集団生活での約束を理解できるようにし、規範意識を高め、自分のことは自分でやろうとする自立心を育て、自由に遊べる環境を整える。 ・自由に遊ぶためには、約束を理解し守ることの大切さを伝え、危険な場合には、すぐに対応できる環境作りを心がけ対応していく。 ・CD デッキを操作して音楽を自分で自由に流したり、楽器に触れたり、いろいろな材料を使って自由に製作を楽しむ環境を整える。特に製作については、園児の身近にある牛乳パックや箱、カップなどを利用し、安心して遊べる環境を作る。 ・園児の思いや興味・関心をとらえ、カリキュラムを基準にしながら園児主体の保育を進め、遊びを通して学べる環境を整える。そして、何が育ったのかを可視化し保護者に伝える。
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が心配を抱えて子育てすることは、園児の成長にとって大きな妨げとなるため、保護者も安心して我が子を幼稚園に送り出せるよう、保護者が相談できる場や安心できる場として幼稚園の役割を進めていく。 ・食育として食事マナーや正しい箸の持ち方の習得、偏食の改善を進めながら、令和6年度は週5回の給食提供を行い、子育て支援の充実を図る。 ・未就園児の保護者対象に本園の教育に興味をもちご理解いただけるよう、ホームページや Lineなどで情報を広く伝え、休園日などを利用した園内での活動（SEITOKU オープンキンダーワールド）を実施していく。また、幼稚園の教育、良さを感じて頂けるよう、園内見学などを実施し、さらに、『子育て広場』や近隣施設との連携をすすめる。
<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全な預かり保育の充実を図り、遊びを通して育ち学べる環境を整える。 ・他学年との関わりを通して刺激を受け、模倣から遊びに繋がる環境を大切にしていく。